

令和3年度 第1回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和3年6月1日(火) 14:00～16:00

場所：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

次 第

1 開 会

2 議案審議

議案第1号 令和2年度事業報告について

議案第2号 令和2年度決算（案）について

議案第3号 令和3年度事業計画（案）について

議案第4号 令和3年度予算（案）について

3 閉 会

金沢シビックテック推進協議会 委員名簿

(50音順、敬称略)

区 分	氏 名	役 職	備 考
委 員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委 員	真田 秀樹	株式会社アイ・オー・データ機器 社長室室長	
委 員	中沢 実	金沢工業大学工学部情報工学科教授	
委 員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事	会長
委 員	布施 安子	NPO 法人子育て支援 さくらっこ 理事長	
委 員	眞鍋 知子	金沢大学 地域創造学類 教授	
委 員	矢後 智子	コードフォー高岡代表	
委 員	谷内 博史	金沢市市民活動サポートセンター所長	
監 事	松本 明	金沢市会計課長	

令和 2 年度事業報告

本年度の協議会事業として以下の4事業について実施した。

(1) 地域課題解決マッチング事業

課題募集から、アイデア募集、作り手とのマッチングを実施し、2チームに対して課題解決につながるアプリ作成の支援を実施。

(2) オープンデータ官民ラウンドテーブル

4件のオープンデータの公開要望に対して、個人情報保護の問題があるデータ要望を除く3件のオープンデータを公開。

(3) シビックテック塾

プログラミングを必要としないノーコードツールを使い、アプリケーションの作成研修をオンラインで実施。20名が受講。

(4) 情報発信事業

シビックテックに関するポータルサイトを立ち上げ、協議会事業周知のほか、他都市の事例紹介やシビックテック人材バンクサイトの作成など積極的な情報発信を実施

それぞれの事業の詳細については、以下のとおりである。

1 地域課題解決マッチング事業

解決したい地域・行政課題を市民や行政から募り、ICTを活用したアイデアを募集する。アイデア提案者と協働制作を希望する作り手をマッチングさせ、開発支援を行う事業。

(1) 地域課題募集

- ・募集期間：令和2年7月30日（木）～8月26日（水）
- ・募集内容：金沢市の地域課題
- ・応募数：16件（地域課題 13件 行政課題 3件）
- ・審査方法：書類審査（事務局）
- ・選定数：8件（制度的な課題など解決につながらないものを除外）

(2) アイデア募集

- ・募集期間：令和2年9月10日（木）～9月30日（水）
- ・募集内容：ICTを活用して地域課題を解決するアイデア
- ・応募数：10件
- ・審査方法：書類審査（協議会委員）
- ・選定数：5件（審査基準 ①課題解決力 ②実現性 ③継続性）

(3) 作り手（アプリ等開発者）募集

- ・募集期間：令和2年10月12日（月）～10月28日（水）

(4) 作り手（アプリ等開発者）とのマッチング

日時：令和2年10月29日（木） 19:00～21:00

会場：ITビジネスプラザ武蔵 6階 交流室1

内容：アイデア提供者によるプレゼンテーション及び作り手（アプリ等開発者）とのマッチング

作り手参加人数：10名

一般観覧者：12名

当日マッチングされた課題：2件

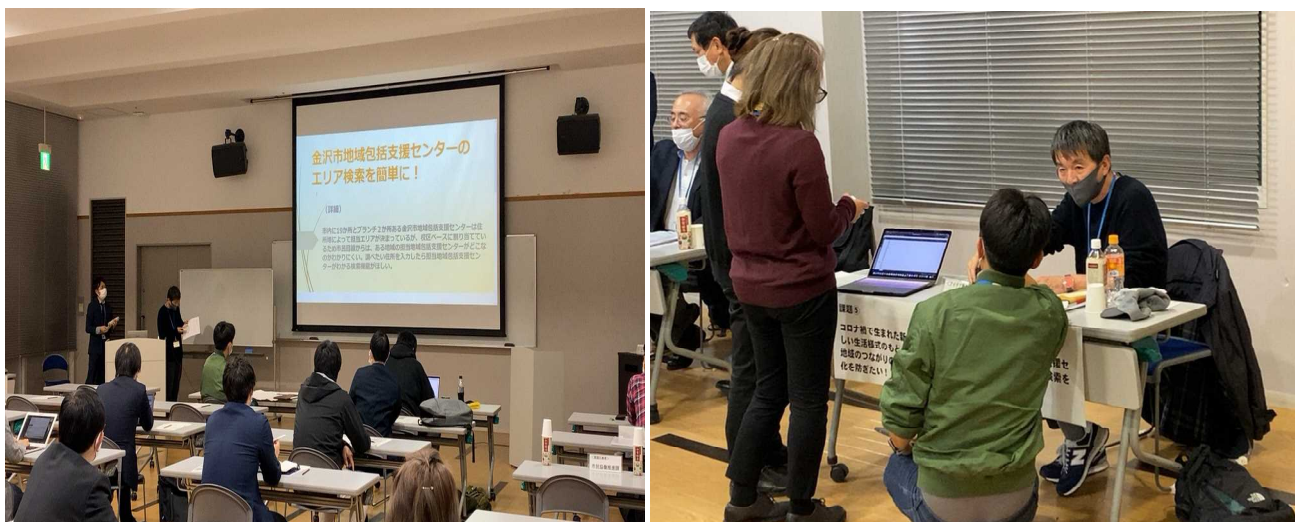
【マッチングされた課題】

	地域包括支援センター	「避難者カード」の電子化
課題内容	調べたい住所を検索したら担当地域包括支援センターがわかる検索機能が欲しい	「避難者カード」を電子データで保持し運用できる仕組みが欲しい
課題提供者	小堺 武士	高田 和成
アイデア提供者	古橋 輝行	高田 和成
作り手	五十川 員申 泉 幸恵	飯田 貴史 松田 夕貴 萬崎 統仁 白浜 加奈 西 聡士

【「地域課題解決マッチングイベント」来場者アンケート結果】

アンケートの集計結果は「参考資料1」をご参照下さい。

【マッチングイベントの様子】



(5) 作り手（アプリ等開発者）の再募集

日時：令和2年11月6日（金）～11月30日（月）

募集内容：マッチングイベントにて、マッチングされなかったアイデアの作り手（アプリ等開発者）を再募集

応募数：0件

(6) 支援の可否に関する審査会

日時：令和3年2月12日（金） 18:30～20:30

会場：金沢市役所7階 第5委員会室（オンライン開催）

内容：課題解決マッチング事業で結成されたチームに対し、提出された企画書を審査し、支援の可否及び支援額を決定

審査結果：2チームそれぞれに支援金25万円を支給することで決定

2 オープンデータ官民ラウンドテーブル

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催し、行政職員及び民間企業や市民等の間で、データの公開要望や公開可否について議論し、オープンデータ公開を推進する事業。

(1) データ公開要望の募集

募集期間：令和2年2月9日（水）～令和2年2月10日（金）

募集内容：「健康・医療・介護・子育て」分野での活用を想定したデータの公開要望

応募数：4件

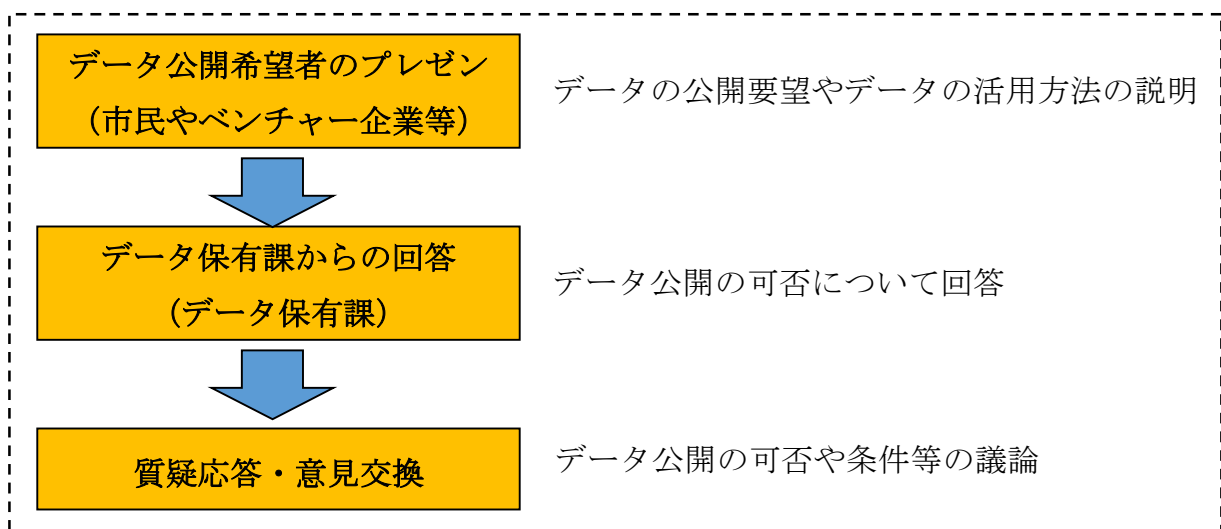
- ・レセプトデータ・特定健診データ・介護データの匿名加工情報
- ・KDBデータ（検診・医療・介護に関するデータ）
- ・金沢広域急病センター利用者数
- ・休日当番医情報

(2) ラウンドテーブルの開催

日時：令和2年10月22日（木） 19時00分～21時00分

場所：ITビジネスプラザ武蔵 6階 交流室1

(進行イメージ)



【オープンデータ官民ラウンドテーブル結果】

対象データ (公開・変更要望)	データ 保有課・関係課	公開の可否
レセプトデータ 特定健診データ 介護データの匿名加工情報	広報広聴課 医療保険課	×
KDB データ	医療保険課 介護保険課	○ (オープンデータではないがデータ提供済)
金沢広域急病センター利用者数に関するデータ	健康政策課	○
休日当番医情報に関するデータ	健康政策課	○

○：公開 △：今後の課題・検討事項 ×：公開不可

【参考：オープンデータ官民ラウンドテーブル当日の様子】



(3) オープンデータの公開

公開データ：金沢市休日当番医情報

公開日時：令和3年1月28日（木）

公開データ：KDBデータ

公開（提供）日時：令和3年3月10日（水）

公開データ：金沢広域急病センター利用者に関するデータ

公開日時：令和3年3月15日（月）

3 シビックテック塾

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等が、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発に取り組むことによる人材育成事業。

(1) 実施内容等

ノーコードでアプリケーションの制作に最低限必要な知識や技術をオンライン講義・演習の形を通して全3回学習。

募集期間：令和2年7月28日（火）～8月24日（月）

実施期間：

第1回：8月29日（土） 13:00～17:00

第2回：9月26日（土） 13:00～17:00

第3回：10月24日（土） 13:00～17:00

募集対象者：

スマートフォンアプリケーションの開発に関心を持つ人

※年齢不問

※金沢市および金沢市近郊に通勤通学、在住している

募集結果：定員20名（応募者数：28名）

講師：一般社団法人コード・フォー・カナザワ

福島 健一郎氏・雄谷 峰志氏・五十川 員申氏・佐々木 修吾氏

(2) 講義内容

ノーコードでのアプリの開発環境ツールである glide. を使用し、各受講者が作りたいアプリを講師と相談しながら、スプレッドシートの記入方法など技術的なノウハウを習得。

開催日	内容	時間
8月29日（土）	シビックテックとは（講義）	13:00～13:30
	ノーコードとは（講義）	13:30～14:30
	自己紹介	14:30～15:00
	ノーコードの練習問題	15:00～17:00
9月26日（土）	考えてきたアイデアの発表	13:00～14:00
	プロダクトの作成	14:00～17:00
10月24日（土）	プロダクトの完成を目指す	13:00～17:00

【「シビックテック塾」受講生アンケート結果】

アンケートの集計結果は「参考資料2」をご参照下さい。

【受講生の作成アプリ例】

	アプリ概要
1	文化祭のスケジュール管理、ゲーム、アンケートを行えるアプリ
2	育友会の旗持ち当番を管理し、確認できるアプリ
3	金沢検定の問題を詰め込み、学習できるアプリ
4	友人との旅行先の管理やメンバー内の情報共有ができるアプリ
5	金沢市近郊にあるスペシャルティコーヒーのお店を掲載し、検索できるアプリ
6	IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズの企業や団体の取組を紹介するとともに、申込み機能も備えたアプリ
7	金沢市の居宅介護支援施設、金沢市地域包括支援センター、通所介護施設等を一覧で表示させることができる。 また、施設の住所、電話番号、営業時間なども閲覧することも可能なアプリ

【受講生のアプリ例】

「断密祭～『NO密』だけど『濃密う』～」 金工祭公開アプリ

新型コロナの影響で、一般公開できなくなってしまった文化祭。「公開できないなら、公開できるアプリを作ってしまう！」をコンセプトに、PC 検定部 3 年生(電子情報科)が「文化祭公開アプリ」として制作しました。学校紹介から、イベント情報、文化祭で実施するクイズやアンケートの集計までを、アプリに盛り込まれています



【シビックテック塾の様子】



4 情報発信事業

「シビックテックポータルサイト」を立ち上げ、シビックテックの事例や他都市の事例などを掲載し、本市が積極的にシビックテックの情報発信をする事業。

公開日 : 令和2年11月12日(木)

掲載内容:

1. 協議会事業

- ① 金沢シビックテック推進協議会事業とは
- ② 地域課題解決マッチング事業
- ③ オープンデータ官民ラウンドテーブル
- ④ シビックテック塾

2. シビックテック人材バンク

- ① シビックテックプレイヤー応募フォーム
- ② シビックテックプレイヤー一覧・検索機能

3. 事例集

- ① 全国各地のシビックテック取組み事例
- ② 全国のシビックテック団体の提供サービス (Web・アプリなど)

4. シビックテック関連リンク集

- ① 全国の Code for 団体及び関連団体の紹介
- ② オープンデータ関連サイト紹介

5. お知らせ

- ① 金沢シビックテック推進協議会事業についてのお知らせを随時更新

【TOP ページ画面】

CIVIC TECH
金沢シビックテック推進協議会

協議会事業 ○ シビックテック人材バンク ○ 事例集 ○ シビックテック関連リンク集 ○ お知らせ ○

金沢シビックテック推進協議会事業とは

トップ > 金沢シビックテック推進協議会事業とは

金沢シビックテック推進協議会について



シビックテックの推進を図ることで、金沢市において、市民や行政のニーズに即した地域課題の解決につながるアプリケーションやサービスが提供されるようになることを目的としています。

イベント情報などをSNSで発信しています
[金沢シビックテック推進協議会Facebookはこちら](#)

CIVIC TECH
金沢シビックテック推進協議会


協議会事業 ○ シビックテック人材バンク ○ 事例集 ○ シビックテック関連リンク集 ○ お知らせ ○

シビックテック人材バンク

トップ > シビックテック人材バンク

各地域でシビックテックに関わる方々をシビックテックプレイヤーとして紹介します。準備が出来次第、掲載していく予定です。

**あなたも活躍する
プレイヤーになりませんか？**
登録プレイヤー募集中!!



応募はこちらから

プレイヤーを探す

検索

「地域課題解決マッチングイベント」来場者アンケート結果

参考資料1

【概要】

開催日 令和2年10月29日(木)
開催場所 ITビジネスプラザ武蔵

【集計結果】

来場者数:30人
回答者数:24人(80%)

<共通質問>

このイベントを何で知りましたか？

金沢市HP	3
Facebook	4
LINE	1
知人や友人	7
金沢市職員	6
その他	3

『シビックテック』ということばをご存じでしたか？

知っていた	14
知らなかった	7

<知っていたと回答した方へ>

実際にシビックテック活動をされていますか？

している	5
したことがある	2
したことがない	7



実際にどのような活動をされていますか

・Code forの運営
・ゴミの日の見える化アプリ
・シビックテック塾

開催日程(平日の夜間開催)についてどう思いますか？



今のままで良い	16
平日の日中が良い	1
休日の日中が良い	2
休日の夜間が良い	0
その他	0

地域課題をシビックテックで解決するこの事業についてどう思いますか？

非常に良い		15
良い		4
あまり良くない		2
良くない		0


<課題提供者の方へ質問>

提案されたアイデアは、課題解決につながりそうですか？

とてもそう思う		2
そう思う		2
あまり思わない		0
全く思わない		0






<アイデア提供者の方へ質問>

今回応募された動機を教えてください。







興味ある課題があったから		3
シビックテック活動に興味があったから		0
その他		0

<アプリ等開発者の方へ質問>






参加された主な動機を教えてください。

シビックテック活動に興味があったから		3
保有するスキルを役立てられるから		1
これを機に新たな技術を習得したいから		2
所属する会社等の活動の一環だから		3
知人等の紹介があったから		3
その他		0




保有するスキルを教えてください。

Webデザイン		2
Webアプリ制作		5
スマホアプリ制作(iOS、Android)		3
データベース関連		2
ネットワーク関連		1
その他		3





どのスキルを活かしたい、活かせると思って参加されましたか。

Webデザイン		0
Webアプリ制作		6
スマホアプリ制作(iOS、Android)		5
データベース関連		3
ネットワーク関連		3
その他		2


発表を聞いてどのようなものを作るかイメージできましたか。

できた		1
まあまあできた		6
あまりできなかった		2
できなかった		0

もし次回に別の課題に取り組む場合、どの段階から参加したいですか。

課題の発見から		1
課題解決のアイデアの企画から		4
今日のイベントから		1
その他		1

プログラムは原則オープンソースとすることについてどう思いますか。

やや抵抗がある		2
オープンソースにたくない		0
わからない		0

今後の参考に、どのような課題、アイデアであればエンジニアが参加しやすいと思いますか。

- ・金額が妥当であるもの
- ・課題提供者とアイデア者のマッチングをもっと丁寧に。
- ・課題の掘り起こし方法がHPや広報では、多様な課題が出にくい
- ・課題提供者とアイデア提供者が事前に打ち合わせする場を設けるべき
- ・課題提供者の意見を反映したアイデアにするような過程が必要

シビックテック塾 アンケート結果

参考資料2

【概要】

開催日	第1回	令和2年	8月29日(土)
	第2回	令和2年	9月26日(土)
	第3回	令和2年	10月24日(土)
対象者	受講者	19人	

【集計結果】

回答者数 11人 (57.9%)

このイベントを何で知りましたか

金沢市ホームページ	3人
Facebook	1人
LINE	3人
チラシ	2人
知人や友人	1人
その他	1人

シビックテックという言葉をご存じでしたか

知っていた	5人
知らなかった	6人

アプリケーションの開発に関する前提知識はどの程度ありましたか

なし	8人
参考書を読んだ	1人
セミナー等を受けた	0人
アプリ開発経験あり	0人
その他	2人

講義日数・時間について

長かった	2人
適当だった	8人
短かった	1人

講義内容について

理解できた	8人
理解できなかった	3人

ノーコードでアプリを作成する難易度について

とても難しかった	1人
難しかった	7人
簡単だった	3人
とても簡単だった	0人

アプリはどの程度完成しましたか

完成した	2人
だいたい完成した	5人
完成できなかった	4人

講師の対応について

非常に良かった	4人
良かった	5人
普通	2人
悪かった	0人

オンラインでの開催について

非常に満足	2人
満足	6人
不満足	3人
非常に不満足	0人

今回のオンラインツール（ディスコード）について

使いやすかった	7人
使いにくかった	4人

講義以外で制作にどれだけ時間を確保することが出来ましたか

10時間未満	10人
10～20時間	0人
20時間以上	1人

今後このような塾に参加する機会があれば、参加しやすい時期を教えてください

休日	9人
平日	2人

時間帯を教えてください

午前中（9：00～）	5人
午後（13：00～）	5人
夜（18：00～）	1人

このイベントに参加した動機は何ですか

- ・簡単にアプリが作れる
- ・アプリに興味か湧きました
- ・ノーコードについて興味があったため
- ・ノンプログラミング
- ・ノーコードの技術を身につけたかったから
- ・自分でアプリを作るためのきっかけ作りとして
- ・ICTで解決したい問題があったので、渡りに船だと思ったから
- ・ノーコードプログラミングがおもしろそうだったから
- ・ノーコードでアプリ作成という言葉に興味を持った

オンライン開催で改善して欲しい点がありますか

- ・個々の進行状況を見ながら質問ができれば良い
- ・工程の区切りを増やして欲しかったです
- ・2回目の時、作業時間の間フリー！となったのは驚いた。質問を堂々と聞けず遠慮してしまって上手く言えなかったので、あまり進まなかった。
- ・もくもく会になるのであれば、その旨伝えてほしかった
- ・グループディスカッションの沈黙が、オフラインよりそわそわしますね
- ・事前にインストールしておくべきソフトをお知らせしてほしかったです
- ・講習のテキストがPDF版であったらよかった
- ・オンラインよりも対面がいいです。
- ・何をしたらいいのか明確なゴールが見えない

今後、どのような塾があれば参加してみたいですか

- ・イラスト作成
- ・動画撮影編集
- ・スマホのゲーム開発
- ・同じ傾向だと参加出来ない
- ・ホワイトカラーの業務管理に使えるアプリの開発
- ・スマホアプリ開発
- ・Webサイト作成
- ・Webサイト作成、AI勉強会

今回の塾で学習したことを、今後、どのようなことで活かそうですか

- ・介護現場の仕事に活かしたいと思います。
- ・地域への貢献 ワークフロー
- ・ショッピングサイト構築
- ・先日、県外からのゲストをアテンドする際に、旅のしおりを作成できた。
自分しか要らないようなアプリを作っていきたい。
- ・データベースからデータを取り出す作業の簡略化
- ・今回は育友会活動の問題解決のために学習しました。
今後も育友会活動をICT化していきたいです。
- ・「自分の力で解決する」ということが魅力的に感じました。
今後は身の回りの課題を自分で作って解決してみたいです。
- ・まちづくりの企画を検討する際、町会の活動をする際スプレッドシートの使い方がわかってよかったです。

シビックテック塾全体を通してのご感想やご要望をご自由にお書き下さい

- ・マッチング企画などの情報など知ることができてよかったです。
- ・政府とは自身だ、という感覚が新鮮でした。今後ともよろしくお願いします。
- ・書いてあったのかもしれませんが、市民に役立つためのアプリ開発なのであれば、わかりやすく趣旨を最初に規定して欲しかったです。
- ・ノーコードという観点は面白いので、もう少し続けてはどうかと思う。
その際、受け身でインプットを求める層も増えてくると思うので、フォローしながら進めてあげて欲しい。
- ・講義と講義の間が空いていたときにDiscordで相談しても良かったのか迷ったので、その辺りのアナウンスをDiscordにピン留めするなどの配慮をしていただけたら良かった。
- ・シビックテックそのものがはじめましてでしたが、とてもいい活動だと思いました。
身近な、ニッチすぎる問題を抱えている人はたくさんいると思います。
それを自分たちで解決できるのですから、それこそ、身近なところから草の根運動で広めていきたいなと思いました。
- ・初めて参加しましたがアプリ開発のやり方などが知れてよい経験になりました。
- ・3回の講習でアプリ開発まで無理ではないかと思っていたが、事前の準備とディスコードなどのツールを専門の講師が巧みに使って講習することで、基礎知識のない者でもわかった気にさせていただいたことは素晴らしいと思いました。
- ・オンライン以外で参加してみたいです。

令和2年度決算(案)

【収入】

(単位:円)

項目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 金沢市支出金(委託料)	2,500,000	2,271,236	△ 228,764	金沢市委託料
2 その他収入		10	10	預金利子
合計	2,500,000	2,271,246	△ 228,754	

【支出】

(単位:円)

項目	予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	備考
1 事業費	2,150,000	1,998,552	△ 151,448	
① マッチング事業	760,000	746,870	△ 13,130	開発準備金等
② ラウンドテーブル開催事業	115,000	41,770	△ 73,230	会場使用料等
③ シビックテック塾開催事業	600,000	495,000	△ 105,000	シビックテック塾委託料
④ 情報発信事業	675,000	714,912	39,912	ポータルサイト作成業務等
2 運営費	350,000	272,694	△ 77,306	事務用消耗品等
合計	2,500,000	2,271,246	△ 228,754	

なお、【収入】金沢市支出金の予算額と決算額の差額 228,764円については、金沢市に返納した。

令和3年度
金沢シビックテック推進協議会
事業計画（案）

令和3年度 事業計画（案）

金沢シビックテック推進協議会では、本年度、以下の事業を実施予定である。

I 地域課題解決マッチング事業

市民や行政等から具体的な課題を募集し、その課題について ICT を活用して解決するアイデアを募集する。そして解決アイデア提案者と、アイデアを実際に構築できる「作り手」をマッチングし、開発支援を行うことで、シビックテックの推進を図る。

II オープンデータ官民ラウンドテーブル事業

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、行政職員及び民間企業や市民等の間でデータの公開要望や公開可否について議論することで、オープンデータの公開を推進する。

III シビックテック塾開催事業

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等を対象に、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発等の講義・演習等を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成する。

IV 情報発信事業

令和2年度に立ち上げた「シビックテックポータルサイト」において、当協議会の事業やシビックテックの事例等の積極的な PR に努めるとともに、掲載情報の充実を図る。

V 協議会内の意見交換機会の充実

協議会委員が意見交換をしやすいうよう、年2回の正規協議会以外にも、facebookグループによる意見交換の場を設ける。

I 地域課題解決マッチング事業

1 概要

市民や行政等から具体的な課題を募集し、その課題についてICTを活用して解決するアイデアを募集する。そして解決アイデア提案者と、アイデアを実際に構築できる「作り手」をマッチングし、開発支援を行うことで、シビックテックの推進を図る。

2 事業の流れ

(1) 課題募集

- ・市民や行政等に対して、課題のテーマは定めず、具体的な課題（困りごと）を募集する。
- ・昨年度マッチングしなかった課題については、申請者に再応募を呼びかける。
- ・応募された課題は委員に提示の上、原則解決アイデアを募集するが、不適切と思われる課題については、委員同意の上、解決アイデアを募集しない。

<参考> 昨年度応募課題（例）

- ・自分の住所地から担当地域包括支援センターの所在がわかるようにしたい。
- ・避難所に避難された方の「避難者カード」を電子的に保有して運用したい。
- ・工事情報を知って渋滞を避けたい。
- ・コロナ禍での新しい生活様式のもと、地域のつながりの希薄化を防ぎたい。

(2) 解決アイデア募集

- ・(1)で応募された課題に対して、ICTを活用して解決するアイデアを募集する。
- ・昨年度マッチングしなかった課題の解決アイデアについて、申請者に再応募を呼びかける。
- ・アイデア提案書を提出してもらう。
- ・応募された解決アイデアは委員に提示の上、原則作り手を募集するが、不適切と思われる解決アイデアについては、委員同意の上、作り手を募集しない。同様に、応募数が多すぎる場合も、委員同意の上、数を調整する。

<参考> 昨年度応募アイデア（例）

- ・地域包括支援センターのエリア検索機能付きアプリを開発する。
- ・避難者カードをQRコードで管理するため、QRコード作成アプリを開発する。
- ・道路工事の調整会議をシステム化し、そのデータを公開する。
- ・あげる人ともらう人をマッチングするアプリを開発する。

(3) 作り手募集

- ・(2)で応募された課題及び解決アイデアについて、実際に構築できる「作り手(プログラマー等)」を募集する。
- ・作り手は、単独での参加も、事前に複数人でチームを組んでの参加も可とする。

(4) マッチングイベントの開催

- ・日程は、平日夜または、土曜日もしくは日曜日の午後とする。
- ・マッチングイベントのフローは以下のとおりとする。
 - ①解決アイデア提案者は、作り手に向けてアイデアのプレゼンテーションを実施
 - ②解決アイデア提案者のブースを設置し、作り手は興味がある解決アイデアのブースを回り、解決アイデアの詳細について確認する。
 - ③作り手は開発を希望する解決アイデアを選択する。
一つの解決アイデアに複数の作り手が手を上げた場合は、解決アイデア提案者が開発する作り手を選択する。
- ・複数の作り手が組んで開発することも可とする。

(5) 開発支援

- ・解決アイデア提案者と作り手でチームを結成し、企画をブラッシュアップしたものを企画書としてまとめ、事務局に提出する。
- ・提出された企画書は、委員により、課題の解決性や継続性などの観点から審査を行い、支援の可否を判断する。
- ・支援可となったチームに対しては、開発支援費として10万円/件を支給する。
(最大5件)
- ・支援を受けたチームは、おおむね次年度上半期中にアプリ等を公開する。
- ・支援を受けたチームは、毎年度活動報告書を提出する。また、希望に応じて委員等からアドバイスを受ける。※おおむね2年間程度

3 スケジュール(予定)

- 6～7月 課題の募集
- 8～9月 解決アイデアの募集
- 9～10月 作り手の募集
- 10月 マッチングイベントの開催
- 1月 支援の可否の判断

II オープンデータ官民ラウンドテーブル事業

1 概要

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、行政職員及び民間企業や市民等の間でデータの公開要望や公開可否について議論することで、オープンデータの公開を推進する。

2 募集テーマ案

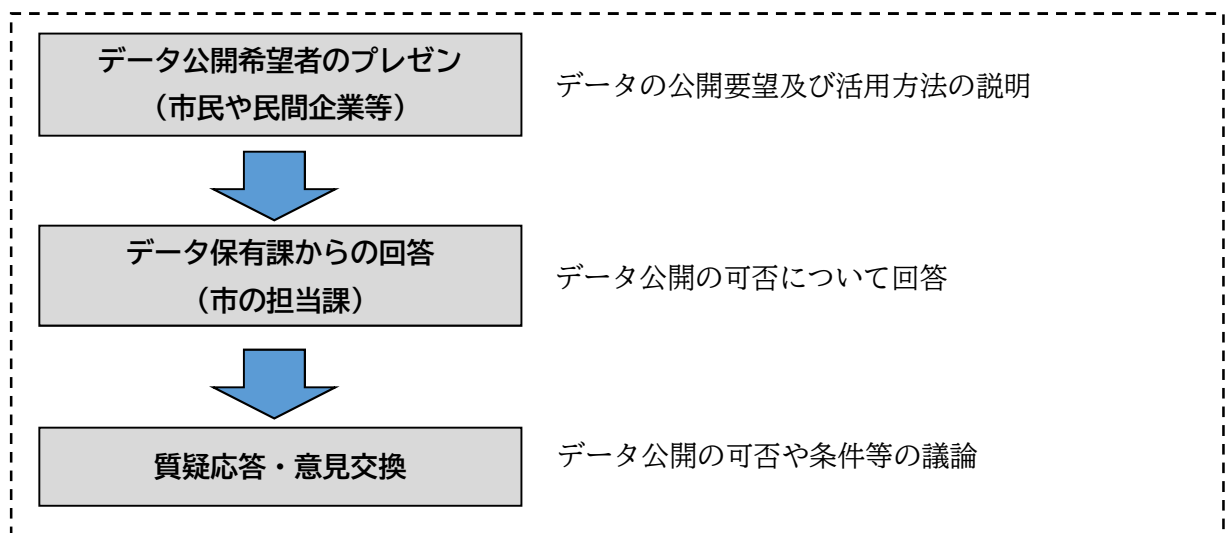
「環境・インフラ・防災」

<参考>

令和2年度のテーマ：「健康・医療・介護・子育て」

令和元年度のテーマ：「交通・移動・まちづくり」

3 ラウンドテーブル 当日の流れ



4 スケジュール (予定)

8～10月 データ公開要望募集

10～11月 担当課とのデータ公開の可否の検討・要望者との調整
応募されたデータ公開要望を委員に提示
→応募数が多い場合は、議論の対象とする公開要望を選定

11月 オープンデータ官民ラウンドテーブルの開催

12月～ 公開に向けた準備

→準備が整い次第、オープンデータとして公開

Ⅲ シビックテック塾開催事業

1 概要

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等を対象に、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発等の講義・演習等を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成する。

2 募集対象者

- ・シビックテックに興味を持つ高校生以上の方
- ・金沢市または金沢市近郊に在住している方
- ・アプリ開発未経験者でも受講可能
(ZOOMによるオンライン会議等、基本的なパソコンの操作ができること。)

3 講義内容

- ・コードを1行も書かずにプロダクトを作成するノーコード塾とする。
- ・月1回、計3回の開催とする。
※社会人を対象とするため、土曜日または日曜日の開催とする。
<参考>昨年度の講義
 - 1回目：シビックテックに関する座学、ノーコードの練習
 - 2回目：作成するアプリのアイデア発表、アプリ開発
 - 3回目：アプリの完成、発表
- ・定員20名程度、受講費無料
※パソコンやスマートフォン、インターネット回線等は各自で用意

4 シビックテック塾の運営

Code for Kanazawaに委託予定

5 スケジュール（予定）

- ～5月 募集要項の作成
- 6～7月 受講生の募集
- 8月 第1回シビックテック塾の開催
- 9月 第2回シビックテック塾の開催
- 10月 第3回シビックテック塾の開催

IV 情報発信事業

1 概要

令和2年度に立ち上げた「シビックテックポータルサイト」において、当協議会の事業やシビックテックの事例等の積極的なPRに努めるとともに、掲載情報の充実を図る。

2 ポータルサイト

(1) URL

<https://kanazawa-civic-tech.jp>

(2) サイト構成

①協議会事業の紹介

- ・金沢シビックテック推進協議会とは
- ・地域課題マッチング事業
- ・オープンデータ官民アラウンドテーブル
- ・シビックテック塾

②シビックテック人材バンク

- ・シビックテック分野で活躍するプレイヤーの紹介及び募集

④他地域事例集

- ・他の自治体等でのシビックテック活動事例の紹介

⑤シビックテック関連リンク集

3 スケジュール（予定）

6月～8月 掲載情報充実に係る検討

9月～12月 掲載情報の充実

1月～3月 令和3年度事業結果の掲載

※ポータルサイトでの情報発信は通年で実施

V 協議会内の意見交換機会の充実

1 概要

協議会委員が意見交換をしやすいよう、年2回の正規協議会以外にも、facebookグループによる意見交換の場を設ける。

2 facebookグループ

協議会のfacebookグループを立ち上げ、各委員及び事務局が意見交換を行う。

3 スケジュール（案）

6月 Facebookグループ立ち上げ

令和3年度予算(案)

【収入】

(単位:千円)

項 目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備 考
1 金沢市支出金(委託料)	2,500	2,500	0	金沢市委託料
合 計	2,500	2,500	0	

【支出】

(単位:千円)

項 目	当年度 予算額	前年度 予算額	増減 (対前年)	備 考
1 協議会事業費	2150	2,150	0	
①マッチング事業	795	760	35	
②官民ラウンドテーブル開催事業	162	115	47	
③シビックテック塾開催事業	670	600	70	
④情報発信事業	523	675	△ 152	ポータルサイト構築完了に伴う減
2 協議会運営費	350	350	0	
事務費	350	350	0	
合 計	2,500	2,500	0	

令和3年度 第1回金沢シビックテック推進協議会 会議概要

日時 : 令和3年6月1日(火) 14:00~16:00

場所 : 金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

出席者: 小俣 博司 オープン川崎 代表

真田 秀樹 株式会社アイ・オー・データ機器 社長室室長

中沢 実 金沢工業大学工学部情報工学科教授

福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事

眞鍋 知子 金沢大学 地域創造学類 教授

矢後 智子 コードフォー高岡代表

谷内 博史 金沢市市民活動サポートセンター所長

(五十音順)

事務局 松田市民局長、木谷市民協働推進課長、松本会計課長(監事)、
吉田課長補佐、越野係長、神田主査

1. 議案

議案第1号 令和2年度事業報告について

議案第2号 令和2年度決算(案)について

議案第3号 令和3年度事業計画(案)について

議案第4号 令和3年度予算(案)について

2. 議案審議

議案第1号から第4号について承認した。

3. 委員意見

令和2年度事業報告について

【委員】

地域課題解決マッチング事業について、アイデア応募があった5件のうち、作り手とマッチングした件数が2件ということだが、その経緯を説明して欲しい。

【事務局】

応募があったアイデア5件全てについてプレゼンを実施し、マッチングを行った結果、作り手の方々が開発したいと手を上げたアイデアが、5件のうち2件のどちらかであった。

【委員】

金沢シビックテック協議会のポータルサイトにおいて、人材バンクの情報も充実させて行く予定か。

【事務局】

人材バンクの情報も含めて、ポータルサイトの掲載情報の充実に努めていきたい。

【委員】

地域課題解決マッチング事業について、マッチングされた2つのアイデアに、それぞれ2名と5名でチームを結成しているが、作り手10名のうち7名がマッチングされたという理解でよいか。10チーム応募があったということではないということよいか。

また、作り手の応募については、元々チームで応募があったものなのか、それとも個人からそれぞれ応募があってその場でチームを結成したものなのか。

【事務局】

作り手の応募には、チームとして複数名記載の上応募いただいたものと、個人で応募いただいたものがあった。マッチングイベント時に、同じアイデアに手を上げていただいた作り手の皆さんを、一つのチームとして結成したものである。

作り手の応募人数の合計が10名で、そのうち、2名と5名のチームが結成されたということであり、10チーム応募があったということではない。

令和3年度事業計画（案）について

【委員】

本協議会の事業としては、課題を募集し、ICTを活用して解決を目指すことと、オープンデータ化の推進を両輪で進めているように思うが、オープンデータの活用はアプリ開発に限られるものではなく、まちづくり活動等の中で、意思決定やその活動の中で活用する方法などもあると思う。

金沢市では現在、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進していると聞いているが、オープンデータについては、ラウンドテーブル事業で募集するだけではなく、市民にとって有益なデータや市民活動につながるデータを提供していく仕組みが必要かと思うがどうか。

【事務局】

金沢市では現在、DXについては、民間の有識者及び市長等で組織される「DX会議」と、そこで頂いたご意見等を市の施策に反映するための庁内組織である「DX推進本部」を設置しているところである

これらの会議は基本的に月1回、それぞれテーマを設定して開催しており、その中で、市が保有するデジタルデータの活用についても検討することを考えている。

本協議会やその他の審議会等で頂いたご意見等についても、DX会議やDX推進本部で検討することもあるのではないかと考えている。

【委員】

DX 会議での議論の結果を本協議会へフィードバックするほか、逆に本協議会での議論の結果を市民目線から DX 会議へフィードバックするなどできれば、会議が有意義なものとなるのではないかと考える。

そのためには、facebook グループ等を活用し、委員間の意見交換がしやすい環境を作ることが必要だと考える。

【委員】

地域課題解決マッチング事業について、昨年度作り手に応募してマッチングし、アプリを開発中の作り手が、今年度も作り手として応募することは可能か。

というのも、作り手を育成し、参加者の裾野を広げていかなければ、シビックテック推進事業を継続していくことは難しいだろう。シビックテック塾で人材育成に努めているところではあるが、それ以外の金沢市内及び近郊で作り手となれる人材を、どのように発掘していくか。

【事務局】

昨年度応募した作り手が、今年度も応募することは可能である。作り手が可能な範囲で複数のアプリを開発してもらうことは、シビックテックとして望ましい状況ではないかと考えている。

また、本協議会の前身であるアプリ開発推進協議会でも「アプリ開発塾」を開催するなど、人材の育成に努めてきたところではあるが、大都市と比較するとどうしても技術者等の絶対数が少なく、いかに作り手を育成していくかが、シビックテック推進の重要な柱であると考えている。

金沢市内及び近郊には大学が多く、市民協働推進課では学生とのつながりもあることから、技術系の学生達と協働できないか検討したい。

【委員】

シビックテック塾について、募集が6～7月、講義が8月、9月、10月の月1回だと間延びしてしまい、学生は参加しづらいのではないかと考える。

例えば、大学の一つの講義の中で完結するようなかたちで、9月頃募集かけ、講義3回を短期間で消化するようなスケジュールとすれば、学生にもアプローチしやすいのではないかと考える。

また、講義については、オンデマンドでもよいのではないかと考える。

【事務局】

オンデマンドでの講義は良いアイデアであると考えている。

講義の開催にあたっては、委託予定である Code for Kanazawa の講師の稼働時間も限られることから、より多くの方が参加しやすい方法を検討したい。

【委員】

ギガスクール事業で小中学生に1人1台パソコンを支給し始めているが、高校生ではパソコンの普及はあまり進んでいない。作り手の裾野を広げるという観点から、パソコンの貸し出し等による環境整備も検討してはどうか。企業のリースアップパソコンを集めて貸し出ししているような事例もある。

また、事例紹介になるが、専修大学が課題解決型インターンシップを実施しており、私の団体である「オープン川崎」にも数名の学生に参加してもらい、プログラミング等を行っている。このように、「教える」というよりも、様々な人たちとマッチング等を行い、継続的にコミュニティができるような仕組みもよいのではないか。

もう一点は、Google と「東北 TECH 道場」を、東北を中心に実施しているが、講義ではなく、機会を与えてみんなで考えてもらうという方式で開催している。今年は、無料のプログラミング動画を一緒に見ながら作り上げることを行っている。継続的に取り組むのであれば、このような事例も参考になるのではないか。

【委員】

プログラミングとなると、金沢市の事業としては、産業政策課が実施しているプログラミング教室と対象者が重複してくるか。

【事務局】

産業政策課が実施しているプログラミング教室は主に小学生が対象であり、大学生や社会人は対象となっていないのではないか。

【委員】

オンラインだからこそできることだが、例えば Microsoft や Google 等、名の通った企業の方とマッチングすると、いい刺激になるかもしれない。

【委員】

別の課で実施している事業であっても、本協議会としてこのような意見を提案することができるのではないか。

【委員】

金沢市のシビックテック活動は、熱心なリピーター達が活動して支えてくれている印象がある。今後はいかに周知を行い、関係者を増やしていくかが重要である。以前、文系でプログラミングに興味がある学生に会ったことがあるが、文系の学生にアプローチすることも有効ではないか。

また、金沢市内に技術系企業は多いが、そういった企業の技術者達は即戦力となることから、うまくシビックテック活動に誘致する方法はないだろうか。

地域課題解決マッチング事業については、昨年度はマッチングした2件に対して開発支援費を等分して支給したが、予算の時点で勘案すべきだったのではないか。

周知活動に関しては、例えばセミナーの開催や、産業政策課のプログラミング教室、IT ビ

ジネスプラザ武蔵等での展示等も選択肢としてあるのではないか。

【委員】

私も過去にいくつかの企業からシビックテックについての相談を受けたことがある。外部のサークル活動のようなかたちで、シビックテックのコミュニティの方々と接触することで、様々な刺激を受け、仕事だけではできない経験をすることができないかということであった。

【委員】

新型コロナウイルス関係では今後、例えばワクチン接種の予約枠や、感染対策が十分な店舗、ワクチン接種証明等が必要な店舗等の情報のニーズが出てくると考えているが、金沢市からそういったデータは提供可能か。

【事務局】

金沢市では現在、県が公開した情報を元に、金沢市の感染状況を発信している。

例えば、どこで感染したかというようなコロナ関係の情報は、おそらく本市の保健所では保有しているが、個人情報という整理で、そのままでの公開は難しいのではないか。

ただ、時間が経過して統計データとして取り扱われるようになってくると、オープンデータかどうかは別にして、ある程度提供できるようになるのではないかと考えている。